

平成27年1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 福井県教育委員会
 所在地 福井県福井市大手3丁目17-1
 代表者職氏名 教育長 林 雅則

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 平成26年4月1日 ～ 平成27年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ふくいけんりつ かつやまこうとうがっこう	ふりがな	みちした けんゆう
学校名	福井県立勝山高等学校	校長名	道下 賢祐
ふりがな	かつやましりつ かつやまちゅうぶちゅうがっこう	ふりがな	まつむら のぶゆき
学校名	勝山市立勝山中部中学校	校長名	松村 伸之
ふりがな	かつやましりつ せいきにししょうがっこう	ふりがな	わにぶち しげる
学校名	勝山市立成器西小学校	校長名	鱈渕 茂
ふりがな	かつやましりつ むろこしょうがっこう	ふりがな	くろだ まさお
学校名	勝山市立村岡小学校	校長名	黒田 眞生
ふりがな	かつやましりつ のむきしょうがっこう	ふりがな	にしざわ じゅんこ
学校名	勝山市立野向小学校	校長名	西澤 順子

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小中高一貫した学習到達目標に基づいた授業実践により、英語による豊かなコミュニケーション能力を育成する。また、評価の在り方を実践・研究し、児童・生徒の英語力の把握と指導方法の改善を図る。

(2) 研究の概要

小中高一貫した学習到達目標や年間指導計画を作成するとともに、学習到達目標を達成するための指導と評価の在り方について実践・研究する。

小学校では、話すこと・聞くことを中心とした音声指導に重点を置きながら、自分のことや他人のことを表現し伝え合う力を育成する。3・4年では、発達段階を考慮した外国語活動の指導と評価の在り方、5・6年では、読むことと書くことの指導や評価方法を実践・研究する。

中学校と高校では、文法や和訳などの理解中心の授業から、生徒が英語を使って意見や考えを伝え合う授業を行う。また、校内試験やパフォーマンステストの改善、外部検定試験の受験を通して、生徒の英語力を客観的に把握するとともに、指導方法の改善を図る。

小学5・6年で **Hi, friends!** を使った英語科の指導を行うとともに、小学6年で中学1年の学習内容を一部指導したり、中学3年で高校1年の学習内容を一部指導したりする中で、学習内容を高度化する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

勝山市は、福井県の東部に位置し、豊かな自然に加えて国内最大級の恐竜博物館を有し、国内外にその魅力を発信している。

研究校の3小学校（成器西小学校、村岡小学校、野向小学校）の全児童が勝山中部中学校に進学し、その多くが勝山高校に進学するという環境の中で、地域をあげて学校を支える教育風土が育っている。

また、勝山市内の全小中学校が今年度「ユネスコスクール」に加盟申請をし、環境教育の取組を推進し、その成果を県内外に発信している。勝山市の全中学校が、平成24年度から2年間、福井県英語研究会の研究地域に指定され研究に取り組み、勝山高校でも、平成19年度からSELHiの指定を3年間受け、積極的に研究に取り組んだ。

本研究においては、意見や考えを伝え合い、考えを深める授業実践を行う中で、小学校では、自分や他人のこと、身の周りのことについて簡単な英語で表現できる力を育成し、併せて、読むこと・書くことの指導方法を含めた英語科の評価方法について研究する。

また、中学校では、自然や恐竜博物館等の勝山市の魅力、環境教育の取組について英語で発信できる力、高校では勝山市の歴史や生活、文化等を英語で発信できる力を育成する。

さらには、地域の学校が一体となって英語研究を推進し、英語で郷土の魅力を県内外に発信することを目指したい。

②研究仮説

【小学校の外国語活動】

○研究仮説

メッセージを大切にしたコミュニケーション活動を体験する学習を充実することにより、積極的に自分の思いを伝えたり、友達に積極的に関わろうとしたりする力が育成できる。

○仮説に迫るための工夫

3・4年生という発達段階を考慮して、英語の歌やチャンツ、体を動かした活動を行う中で、英語の音声やイントネーションに十分親しませる。単元の最後には、メッセージのやりとりを重点を置き、工夫されたコミュニケーション活動を導入する。

4年では、福井県独自の補助教材（福井県版グローバル・スタディーズ）を活用する。外国の生活や文化を通して、生きた英語に触れる機会を設定する。

また、英語加配教員が3校の小学校を巡回し、担任とともにティーム・ティーチングで指導する中で、担任の指導力向上を目指す。

○外国語活動の目標（第3学年及び第4学年）

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

- (1) 英語に興味・関心を持ち、自分から進んでコミュニケーションを図ろうとする。
- (2) 簡単な英語を聞いて大まかな内容を理解できる。
- (3) 簡単な英語を使って、自分の言いたいことを話すことができる。
- (4) アルファベットの小文字や大文字を読むことができる。
- (5) 外国の文化に関心をもつ。

○外国語活動の内容

- (1) 相手に質問したり、相手との受け答えを楽しんだりする。
- (2) 知っている言葉やジェスチャー等を手がかりにして、大まかな話の内容を理解する。
- (3) 簡単な質問に対して、自分の言いたいことを話す。
- (4) 音声やリズム、イントネーションなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く。
- (5) アルファベットの文字に興味・関心を持たせながら、3年でアルファベットの小文字を、4年でアルファベットの大文字を読む。
- (6) 日本と外国との文化、生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付く。また、異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深める。

【小中高の英語科】

○研究仮説

意見や考えを伝え合ったり深めたりする指導を行えば、4技能がバランスよく育成できる。

○仮説に迫るための工夫

【小学校5・6年の英語科】

メッセージのやりとりを大切に活動が、読むこと・書くことの意欲的な活動を促すと考える。パターンプラクティスのような機械的な練習に終始することなく、自己表現活動を数多く設定する。読むこと・書くことの指導については、アルファベットの読み・書きを十分に行う、綴

りと発音のつながりについて系統的に指導する中で技能の向上を目指す。

一年次に小学6年のみ週2時間の授業を行うが、二年次からは、小学5・6年ともに週2時間の授業を行う。小学6年では、中学1年の学習内容の一部を指導する。

また、英語加配教員が3校の小学校を巡回し、担任とともにティーム・ティーチングで指導し、4技能の育成に努める。

※綴りと発音のつながりに関する系統的な指導

(アルファベットを中心とした読みを十分に行わせ、書く活動を行うよう配慮する。)

- [3 年] 〈他教科との横断的活動〉国語科におけるローマ字指導（ヘボン式）を行い、外国語活動の学習とスムーズにつながる横断的指導を行う。
- [4～6年] ・〈他教科との横断的活動〉他教科でコンピュータを用いた活動を行う際、ローマ字で入力させ、ローマ字の定着を図る。
 - ・ピクチャーカードに英語の綴りを加える。
- [5・6年] ・アルファベットを読めるよう多様な指導をする。
 - …アルファベットを使ったゲーム（ポインティングゲーム、マッチングゲーム、文字当てクイズ（アルファベットを体で表す）等
 - ・アルファベットを用いた単語（NHK、TV、CD等）を読む、書く。
 - ・フォニックス教材を用いて、アルファベットに様々な発音があることを知る。
 - ・身の回りの簡単な単語を読む。
 - ・身の回りの簡単な単語を作る。（アルファベットカードの活用、ハングマンゲーム等）（例：a、t、c → cat）
 - ・聞く、話す活動と統合して、読む、書く活動を行う。（名刺交換、自己紹介、ランチメニュー紹介等）
- [環境整備] ・校内に、英語を用いた掲示物やアルファベット等を掲示する。

○英語科の目標（第5学年及び第6学年）

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを通して、初歩的な英語の運用能力を養う。

- (1) 簡単な英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
- (2) 簡単な英語を聞いて大まかな内容を理解し、それに応じることができる。
- (3) 簡単な英語を用いて、自分の考えなどを話すことができる。
- (4) アルファベットやフォニックスを手がかりにして、単語・英文を読んだり、書き写したりすることができる。
- (5) 日本と外国の文化を比べ、理解を深める。

○英語科の内容

- (1) 積極的に相手の話を聞いたり話したりする。
- (2) 既習事項を手がかりにして、話の内容の概要を理解する。
- (3) 自分の気持ちや考えを相手に伝える。

- (4) 強勢やイントネーションなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ、発話する。
- (5) アルファベットフォニックスを手がかりにして、単語・英文を読み、書き写す。
- (6) 日本と外国の言葉や文化、生活、習慣を比べ、理解を深める。

【中高の英語科】

福井県英語研究大会の先行研究や勝山高校におけるSELHiの成果、昨年度までの拠点校事業の成果等を活用しながら、意見や考えを伝え合ったり深めたりする活動を数多く設定する。また、勝山市の自然や恐竜、環境教育の取組に関する発展的教材を活用して、勝山市の魅力を英語で発信できる生徒を育てる。

中学1年や2年で上級学年の学習内容も発展的に指導し、中学3年で高校1年の学習内容も一部指導する中で、英語検定3級・準2級程度の英語力を有する生徒を育てる。

③研究成果の評価方法

- ・小学校では3年～6年の児童・保護者を対象にしたアンケート、中学校と高校では全生徒対象のアンケートを2回実施（5月、2月）し、情意面に関する結果分析を行う。
- ・生徒の英語力を客観的に把握し指導方法の改善を図るために、中学2年～高校3年の全生徒が外部検定試験（GTEC）を受験する。
- ・評価委員会（県内大学教授、小中高の研究主任、勝山市指導主事）を組織し、情意面や学力面の評価方法の検討、その結果の分析を行う。
- ・研究の進捗状況の確認し、成果と課題を把握するために、小中連絡協議会、小中英語担当教員連絡会、中高英語担当教員連絡会、運営指導委員会を開催する。特に、運営指導委員会では、県内大学教授の指導や助言を受けながら、研究成果について客観的評価を行う。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第3学年 1コマ 第4学年 1コマ 第5学年 1コマ	第3学年 1コマ 第4学年 1コマ	第3学年 2コマ 第4学年 2コマ	第3学年 2コマ 第4学年 2コマ
②小学校 教科型	第6学年 2コマ	第5学年 2コマ 第6学年 2コマ	第5学年 3コマ 第6学年 3コマ ※1コマはモジュール授業	第5学年 3コマ 第6学年 3コマ ※1コマはモジュール授業

(5) 研究計画（平成26年度の進捗状況・課題）

○第一年次～第四年次、校種別

第一年次

【小学校】

- ・使用教材 3年：Hi, friends!1（35時間）…児童の発達段階を考慮し、Lesson 5まで指導する。
- 4年：Hi, friends!1（25時間）…児童の発達段階を考慮し、Lesson 4まで指導する。
県独自教材（10時間）…グローバル・スタディーズ
- 5年：Hi, friends!1（35時間）…通常の外国語活動を実施する。
- 6年：Hi, friends!2（55時間）…読み・書きを含めて指導する。
中学1年学習内容（15時間）…中学1年の学習内容を一部指導する。
- ・小中高一貫した学習到達目標（外国語活動の目標も含む）、評価規準、評価方法、年間指導計画を作成する。
- ・3年においてローマ字の読み・書き、3～5年においてアルファベットの読み、6年において、アルファベットの読み・書きを指導する。

○平成26年度の進捗状況・課題

【3・4年（外国語活動）の教材】

- ・Hi, friends!1を使用した。児童の発達段階を考慮して、1単元を7～8時間の配当で指導した。4年では、県独自教材（グローバル・スタディーズ）を10時間使用した。
- ・1単元を約2ヶ月かけて指導することで、児童の興味・関心が低下することが多かった。来年度は、小学3年当初に英語に慣れ親しむ活動を組み込むとともに、Hi, friends!1や県独自教材の配列等を含めた年間指導計画を作成し直す。

【6年（英語科）の教材】

- ・12月初旬までHi, friends!2を使用した。12月以降は、中学1年の学習内容を取り込んだ独自教材を開発・活用している。内容は、綴りと発音のつながりに関する内容、中学教科書(New Horizon1) Unit3までの言語材料を使って、外国語活動や英語科のよさを取り込んだ活動になるよう、県教委が作成し、教員が修正を加えて活用している。なお、綴りと発音のつながりに関する指導は、香川県直島小学校の実践例を活用している。
 - ・Start-up1 数字 (New Horizon1 : Warm-up5 に対応)
 - ・Start-up2 月日 (New Horizon1 : Warm-up7 に対応)
 - ・Start-up3 週・曜日 (New Horizon1 : Warm-up6, Unit3 に対応)
 - ・Start-up4 色と形・名前の書き方 (New Horizon1 : warm-up7, 8, 9 に対応)
 - ・Lesson9 Who am I? 私は誰でしょう? (New Horizon1 : Unit1 に対応)
 - ・Lesson10 アルファベットで遊ぼう (New Horizon1 : warm-up3, 4 に対応)
 - ・Lesson11 音の足し算 (New Horizon1 : warm-up3, 4 に対応)
 - ・Lesson12 音を足して読んでみよう (New Horizon1 : warm-up3, 4 に対応)
 - ・Lesson13 アルファベット (New Horizon1 : warm-up3, 4 に対応)
 - ・Lesson12 Thank you, teachers, friends, parents and my school
みんな、ありがとう! (New Horizon1 : Unit3 に対応)

【6年英語科における「読むこと」「書くこと」の指導】

- ・年間を通して、アルファベットを読む指導はできたが、単語を読む、アルファベットを含む文字を書く指導が十分に行えなかった。現在、アルファベットを書く活動、単語を読む・書き写す指導を行っている。
- ・来年度は、3・4年の外国語活動から綴りと発音のつながりに関する指導を系統的に行う中で、アルファベットや単語が読める基礎を築く。5・6年の英語科で、アルファベットを書く、単語を読む・書き写す指導を行う。

【小中高一貫した学習到達目標、評価規準、評価方法、年間指導計画】

- ・研究校や評価研究部が中心となって、外国語活動と英語科における目標、内容、評価規準、年間指導計画を作成した。目標、内容、評価規準については、県内大学教授のアドバイスや先進校の資料（山梨県岩手小学校、香川県直島小学校等）を活用した。
- ・年間指導計画は、年度ごとに学習内容が変わるため、年間指導計画を修正する。
- ・小学校の学習到達目標を作成することができなかつたので、来年度に作成する。

【研究の取組】

- ・担任の授業力向上を図るために、英語専科教員が3校を巡回指導している。3・4・5年の外国語活動では担任がT1、6年の英語科では英語専科教員がT1という形態でティーム・ティーチングによる指導を行っている。
- ・各単元の最終目標となる活動を明確化し、それぞれの時間で付けたい力を意識した指導を工夫した。
- ・総合的な学習の時間や社会科、理科など他教科の学習と関連を図りながらコミュニケーション活動を行った。
- ・英語劇を低学年に演じる、英語集会を行う等を通して、異学年の交流や全校で英語を学ぶ場を設定した。また、英語の歌や朝の英語放送、階段掲示や英語表示、英語ルームの設置など、英語の環境整備も行う中で、児童の英語に対する興味・関心を向上させた。

【教員や児童の変容】

○教員の変容

- ・表現等を教え込むのではなく、児童の気づきを大切にす、話したい、聞きたいと思うような必然性のあるコミュニケーション活動を工夫する中で、児童が自然に表現に慣れ親しむことができる指導力が向上した。
- ・教員が、英語を使った短い指示や褒め言葉を場に応じて使えるようになった。
- ・教員も英語を学ぶモデルとして、コミュニケーションを楽しむことができた。
- ・6年英語科では、英語専科教員の指導力や英語力に頼る部分が大きく、担任単独で指導・評価をすることに戸惑いが見られる。

○児童の変容

- ・英語でのコミュニケーションを通して、自他のことを知ること、学級での仲間作りに役立っている。
- ・新しい表現や単語が出てきても粘り強く聞き取ろうとしている。

- ・英語の指示を聞いて行動できる。
- ・日常生活の中でも、英語を使う児童が増加している。

○課題

- ・メッセージのやりとりを大切に活動が、読むこと・書くことの意欲的な活動を促すという仮説のもとに指導を行ってきた。英語やカタカナ等で表現したいと感じている児童がいるが、書くことに対して、どこまで、どのように指導したらよいか分からない。今後の研究課題である。

【中学校】

- ・使用教材：中学校で使用している教科書
- ・小中高一貫した学習到達目標、年間指導計画と単元計画を作成する。
- ・生徒・保護者に対して、学習到達目標を公開する。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・1時間を通して英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニカティブな授業を実践する。
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（NHKラジオ講座、ALT作成教材、Let's Read、放送テスト、長文速読ワークシート等）を活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

○平成26年度の進捗状況・課題

【使用教材】

- ・教科書 NEW HORIZON English Course 1～3（東京書籍）
- ・長文速読ワークシート（県教委作成）、NHKラジオ講座…教科書にない英文にふれる機会設定
- ・放送テスト（福井県英語研究会編）

【学習到達目標について】

- ・教育研究所や外部有識者の支援を受けながら、中高の英語教員が学習到達目標をすりあわせた。また、評価を含んだ年間指導計画を作成した。
- ・教育研究所では、CEFRをもとに、小中高一貫した「福井県版学習到達目標」を作成した。
- ・指導と評価の一体化、生徒による自己評価での活用が課題である。
- ・生徒に対して学習到達目標を公開した。また、学期や単元の最初に、学期や単元の目標や評価を生徒に提示した。

【生徒の英語力を客観的に把握】

- ・校内テストの改善…教科書にない英文を読ませる、授業でコミュニケーション活動したことを使って英語運用能力を測る問題を出題
- ・インタビューテスト、音読テスト、スキット、プレゼンテーションなどのパフォーマンステストを実施
- ・GTEC 10月：3年生が受験、2月：2年生が受験予定

【意見や考えを重視するコミュニケーション型な授業】

- ・コミュニケーションの目的・必然性を押さえた活動を行う、コミュニケーション活動でどのようなメッセージを引き出すか、教科書を使ってコミュニケーション型な指導を行う等に考慮して、生徒の意見や考えを伝え合う活動を行った。教員や生徒の英語使用量が増加した。
- ・生徒の変容
 - ・ジェスチャーや相づちの工夫、深みのある会話が見られ、話す力が向上した。
 - ・どの生徒とも安心してペア活動ができ、お互いに教え合い学び合う姿が見られた。
 - ・文法等のミスを気にすることなく英作文を書く生徒が増えた。また、意見や理由を加えながら内容の構成に気をつけて英文を書く生徒が増えた。

【中高の英語教員の交流・連携】

- ・研究校での公開授業・授業研究会への参加、中高教員による学習到達目標のすりあわせやGTECの結果分析を行った。

【高等学校】

- ・使用教材：高校で使用している教科書
- ・小中高一貫した学習到達目標を作成する。
- ・生徒・保護者に対して、学習到達目標を公開する。
- ・プレゼンテーションやディスカッション、ディベート等の言語活動の高度化に向けた学習内容、教材、評価規準を作成する。
- ・学習到達目標を達成するために、「指導と評価の年間計画」に基づいて、授業における指導と学習評価を行う。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（福イングリッシュ、ALT作成教材、Let's Read、放送テスト等）を活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

○平成26年度の進捗状況・課題

【使用教材】

- ・教科書 My Way English Communication 1 (1年生)
- Big Dipper English Expression 1 (1年生)
- My Way English Communication 2 (2年生)
- Big Dipper English Communication 2 (2年生)
- Big Dipper Reading (3年生文理2コース)
- Planet Blue Reading (3年生文理1コース)
- Exceed Writing (3年生文理2コース)
- Crown Writing (3年生文理1コース)

・副教材

- ・福 English (県教委作成) …英語表現1の授業で活用、英語で表現する力を高めた。

- ・ALT 作成教材…勝山市のおすすめの場所を紹介するポスター作成、Puppet Show 上演（影絵を使った英語劇）を通して、表現力が向上した。

【学習到達目標について】

- ・教育研究所や外部有識者の支援を受けながら、中高の英語教員が学習到達目標をすりあわせた。
- ・教育研究所では、CEFR をもとに、小中高一貫した「福井県版学習到達目標」を作成した。
- ・生徒・保護者に対して学習到達目標を公開した。
- ・学習到達目標を定めることで、授業や活動のねらいが明確になり、生徒主体の言語活動に変わった。
- ・学習到達目標を念頭に置いた活動を実施するとともに、考査問題にも学習到達目標を反映した出題をすることが課題である。

【生徒の英語力を客観的に把握】

- ・校内テストの改善…教科書の本文だけでなく、初見の英文を含めて、教科書内容の発展問題として出題
- ・パフォーマンステストの実施…音読テストだけでなく自分のメッセージを加えた発表、考えながらスピーチするパフォーマンステストを実施
- ・GTEC…10月：3年生が受験、12月：1・2年生が受験

第二年次

【小学校】

- ・使用教材 3年：Hi, friends!1（35時間）…児童の発達段階を考慮し、Lesson 5 まで指導する。
4年：Hi, friends!1（25時間）…前年度に実施しなかった Lesson 6 以降を指導する。
県独自教材（10時間）…福井県版グローバル・スタディーズ）
5年：Hi, friends!1（50時間）…前年度に実施しなかった Lesson 5 以降を、読み・書きを含めて指導する。
Hi, friends!2（25時間）…読み・書きを含めて Lesson 4 まで指導する。
6年：Hi, friends!2（55時間）…読み・書きを含めて指導する。
中学1年の学習内容（15時間）…中学1年の学習内容を一部指導する。
- ・英語科（5年）の目標、評価規準、評価方法、年間指導計画、学習内容を作成する。
- ・5年において、アルファベットの読み・書きを指導する。
- ・5・6年でのパフォーマンス評価の実践をする。

【中学校】

- ・使用教材：中学校で使用している教科書…中学1年で、中学2年の学習内容を一部指導する。
- ・1年において、2年の学習内容の一部を指導するための指導計画を作成する。
- ・パフォーマンステストを改善し、生徒の英語力を把握し指導に活かす。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・1時間を通して英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニケーション型授業を実

践する。

- ・教科書内容にとどまらない関連教材（NHKラジオ講座、ALT作成教材、Let's Read、放送テスト、長文速読ワークシート等）を活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

【高等学校】

- ・使用教材：高校で使用している教科書
- ・プレゼンテーションやディスカッション、ディベート等の言語活動に取り組む。
- ・学習到達目標を達成するために、「指導と評価の年間計画」に基づいて、授業における指導と学習評価を行う。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・教科書内容にとどまらない関連教材（福イングリッシュ、ALT作成教材、Let's Read、放送テスト等）を活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

第三年次

【小学校】

- ・使用教材 3年：Hi, friends!1（70時間）
4年：Hi, friends!1（25時間）…前年度に実施しなかった Lesson6 以降を指導する。
県独自教材（10時間）…福井県版グローバル・スタディーズ）
Hi, friends!2（40時間）…児童の発達段階を考慮し、Lesson 6 まで指導する。
- 5年：Hi, friends!2（70時間）…読み・書きを含めた4技能を指導する。
文科省作成補助教材を用いたモジュール学習を行う。（35時間）
- 6年：Hi, friends!2（30時間）…前年度に実施しなかった Lesson 5 以降を、読み・書きを含めて指導する。
中学1年の学習内容（35時間）…中学1年の学習内容を一部指導する。
文科省作成補助教材を用いたモジュール学習を行う。（35時間）
- ・勝山市に関する独自教材を作成・活用する。

【中学校】

- ・使用教材：中学校で使用している教科書…中学1・2年で上級学年の学習内容を一部指導する。
- ・2年において、3年の学習内容の一部を指導するための指導計画を作成する。
- ・校内テストやパフォーマンステストの改善、外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・1時間を通して英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニカティブな授業を実践する。

- ・教科書内容にとどまらない関連教材や勝山市に関する独自教材を作成・活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

【高等学校】

- ・使用教材：高校で使用している教科書
- ・プレゼンテーションやディスカッション、ディベート等の言語活動に取り組む。
- ・学習到達目標を達成するために、「指導と評価の年間計画」に基づいて、授業における指導と学習評価を行う。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・教科書内容にとどまらない関連教材や勝山市に関する独自教材を作成・活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

第四年次

【小学校】

- ・使用教材 小3：Hi, friends!1(70時間)
小4：Hi, friends!2(60時間)
県独自教材（10時間）…福井県版グローバル・スタディーズ
- 小5：Hi, friends!2（40時間）…前年度に実施しなかった Lesson 7 以降を指導する。
読み・書きを含めた4技能を指導する。
中学1年の学習内容（35時間）…中学1年の学習内容を一部指導する。
文科省作成補助教材を用いたモジュール学習を行う。（35時間）
- 小6：中学1年の教科書（70時間）…中学1年の学習内容の一部を指導する。
文科省作成補助教材を用いたモジュール学習を行う。（35時間）
- ・勝山市に関する独自教材を作成・活用する。

【中学校】

- ・使用教材：中学校で使用している教科書、高校1年で使用する副教材
…中学1・2年で上級学年の学習内容を一部指導するとともに、中学3年で高校1年の学習内容を一部指導する。
- ・3年において、高校1年の学習内容の一部を指導するための教材選定、指導計画、評価規準を作成する。
- ・校内テストやパフォーマンステスト、外部検定試験（GTEC）を活用して、4年間の生徒の英語力の推移を分析する。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・1時間を通して英語を使って授業を行い、意見や考えを重視するコミュニケーション型授業を実践する。
- ・教科書内容にとどまらない関連教材や勝山市に関する独自教材を作成・活用する。

- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

【高等学校】

- ・使用教材：高校で使用している教科書
- ・中学3年で高校1年の学習内容を指導するにあたって、中学教員に対する学習到達目標や年間指導計画、単元計画作成、指導方法の支援を行う。
- ・外部検定試験（GTEC）を活用して、4年間の生徒の英語力の推移を分析する。
- ・学習到達目標を達成するために、「指導と評価の年間計画」に基づいて、授業における指導と学習評価を行う。
- ・校内テストの改善や外部検定試験（GTEC）を活用して、生徒の英語力を客観的に把握し指導に活かす。
- ・教科書内容にとどまらない関連教材や勝山市に関する独自教材を作成・活用する。
- ・中高の公開授業や授業研究会の実施、中高の英語教員の交流・連携を図る。

（6）評価計画（平成26年度の進捗状況・課題）

○第一年次～第四年次、校種別

○評価を行う際のデータ収集について

- ・情意面のアンケートを年間2回（4月、2月）行う。（小学校は3年～6年の児童・保護者対象のアンケート、中高は全校生徒対象のアンケート）
- ・中学校における学力面の比較は、強化地域拠点校と強化地域拠点校以外の学校（勝山北部中学校や勝山南部中学校）において、福井県学力調査（英語：2年生対象、12月実施）の結果を活用する。また、強化地域拠点校で行う外部検定試験（GTEC）の結果も活用する。
- ・高校における学力面の比較は、強化地域拠点校と強化地域拠点校以外の学校における外部検定試験（GTEC、県模試等）の結果を活用する。

①第一年次

【小学校】

- ・外国語活動の評価方法を吟味する。
- ・英語科の評価方法（テストやパフォーマンステスト等）を作成する。
- ・情意面に関するアンケート内容を検討・作成する。
- ・4月に情意面の基礎データを収集する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、強化地域拠点校以外の学校との比較）を分析する。

【中学校】

- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・情意面に関するアンケート内容を検討・作成する。
- ・4月に情意面の基礎データを収集する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、強化地域拠点校以外の学校との比較）を分析する。

- ・強化地域拠点校と強化地域拠点校以外の学校において、福井県学力調査の結果を分析する。
- ・中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を用いて分析する。

【高校】

- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・情意面に関するアンケート内容を検討・作成する。
- ・4月に情意面の基礎データを収集する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、強化地域拠点校以外の学校との比較）を分析する。
- ・強化地域拠点校と強化地域拠点校以外の学校において、外部検定試験（GTEC、県模試等）の結果を分析する。また、中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を用いて分析する。

○平成26年度の進捗状況・課題

【情意面に関するアンケート】

- ・小中のアンケートは、県学力調査や全国学力調査の質問紙をもとに、県教委・教育研究所が原案を作成し、小中高連絡協議会で協議して完成させた。高校のアンケートは、「わかる度調査（県教委作成）等を参考にして、勝山高校が作成した。
- ・情意面のアンケートは6月と2月に実施し、比較検討する。小学3～6年の児童、中高は全生徒を対象に行った。小学3～6年の保護者を対象にしたアンケートについては、勝山市教育委員会や小中高連絡協議会で協議し、実施しないこととした。
- ・小学校外国語活動の評価は、授業や単元の目標に照らし合わせた振り返りカードを作成・活用し、評価に生かした。
- ・小学校英語科の評価は、児童を励まし英語への学習意欲を高めることを目的として、学期末に簡単なパフォーマンステスト（リスニング問題、1対1のインタビューテストなど）と簡単なアルファベットを「書く・読む」問題を作成し、評価と児童へのフィードバックを行った。来年度は、年間計画に位置づけて学期に数回行う予定である。

【評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）の改善】

○勝山中部中学校

・校内テストの改善

…教科書にない英文を読ませる、授業でコミュニケーション活動したことを使って英語運用能力を測る出題をするなど、知識に偏らない筆記テストを実施している。

・多様なパフォーマンステストの実施

…インタビューテスト（学期に2～3回）、音読テスト、スキット、プレゼンテーション等）

…学期や単元の最初に、パフォーマンステストの評価計画を生徒に伝えた上で実施してい

る。年間や学期の評価では、パフォーマンステストの結果を「外国語表現の能力」に加味している。

○勝山高校

- ・校内テストの改善
…教科書の本文だけでなく、初見の英文を20%含めて、教科書内容の発展の問題として出題している。
- ・パフォーマンステストの実施
…音読テストだけでなく自分のメッセージを加えた発表、考えながらスピーチするパフォーマンステストを実施した。
- ・GTECの結果
 - ・勝山中部中学校（3年生）から見える英語力…**Writing** の力が高く、意見や理由がしっかり書ける。また、**Reading** では要点理解が高く情報処理能力が高い。一方、返り読みの習慣がある生徒が多いため、**Reading** や **Listening** において意味のまとまりごとに内容理解ができないことが課題である。今後も、英語を使って活動を行うことで **Reading** や **Listening** 力の向上が期待できる。
 - ・勝山高校（3年生）の英語力…昨年度と比較して、上位・下位クラスともに、**Reading** と **Listening** のスコアの伸びが大きい。上位クラスでは、**Reading** において、グレード6以上の人数が7人増加、**Listening** ではグレード6以上の人数が8人に増加した。コンピュータ室における多読指導（Oxford Owl のサイトで e-Book による多読）とアウトプットの増加が大きな要因である。

②第二年次

【小学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証をし、必要ならば修正を加える。
- ・英語科の評価方法（テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較）を分析する。

【中学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証をし、必要ならば修正を加える。
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較）を分析する。
- ・中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を用いて経年比較し分析する。
- ・強化地域拠点校と強化地域拠点校以外の学校において、福井県学力調査の結果を分析する。
- ・英語検定の受験を促し、50%以上の生徒が3級を取得することを目標とする。

【高校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証をし、必要ならば修正を加える。
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較）を分析

する。

- ・外部検定試験（GTEC、県模試等）の結果を経年比較し分析する。
- ・強化地域拠点校と強化地域拠点校以外の学校において、外部検定試験（GTEC、県模試等）の結果を分析する。また、中高の英語教員が、外部検定試験（GTEC）の結果を用いて経年比較し分析する。
- ・英語検定の受験を促し、50%以上の生徒が準2級～2級を取得することを目標とする。

③第三年次

【小学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証をし、必要ならば修正を加える。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学級集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・英語科において、テストやパフォーマンステストから導き出された4技能に関するデータを経年比較する。

【中学校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証をし、必要ならば修正を加える。
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・中高の英語教員が、3年間の外部検定試験の分析から、重点的に指導しなければならない技能を洗い出し、指導に活かす。
- ・英語検定の受験を促し、50%以上の生徒が3級を取得することを目標とする。

【高校】

- ・小中高一貫した学習到達目標の検証をし、必要ならば修正を加える。
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に情意面の変容（4月との比較、経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・中高の英語教員が、3年間の外部検定試験の分析から、重点的に指導しなければならない技能を洗い出し、指導に活かす。
- ・英語検定の受験を促し、50%以上の生徒が準2級～2級を取得することを目標とする。

④第四年次

【小学校】

- ・2月に4年間の情意面の変容（経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学級集団の4年間の追跡調査）を分析する。
- ・英語科において、4年間のテストやパフォーマンステストから導き出された4技能に関するデ

ータを比較する。

【中学校】

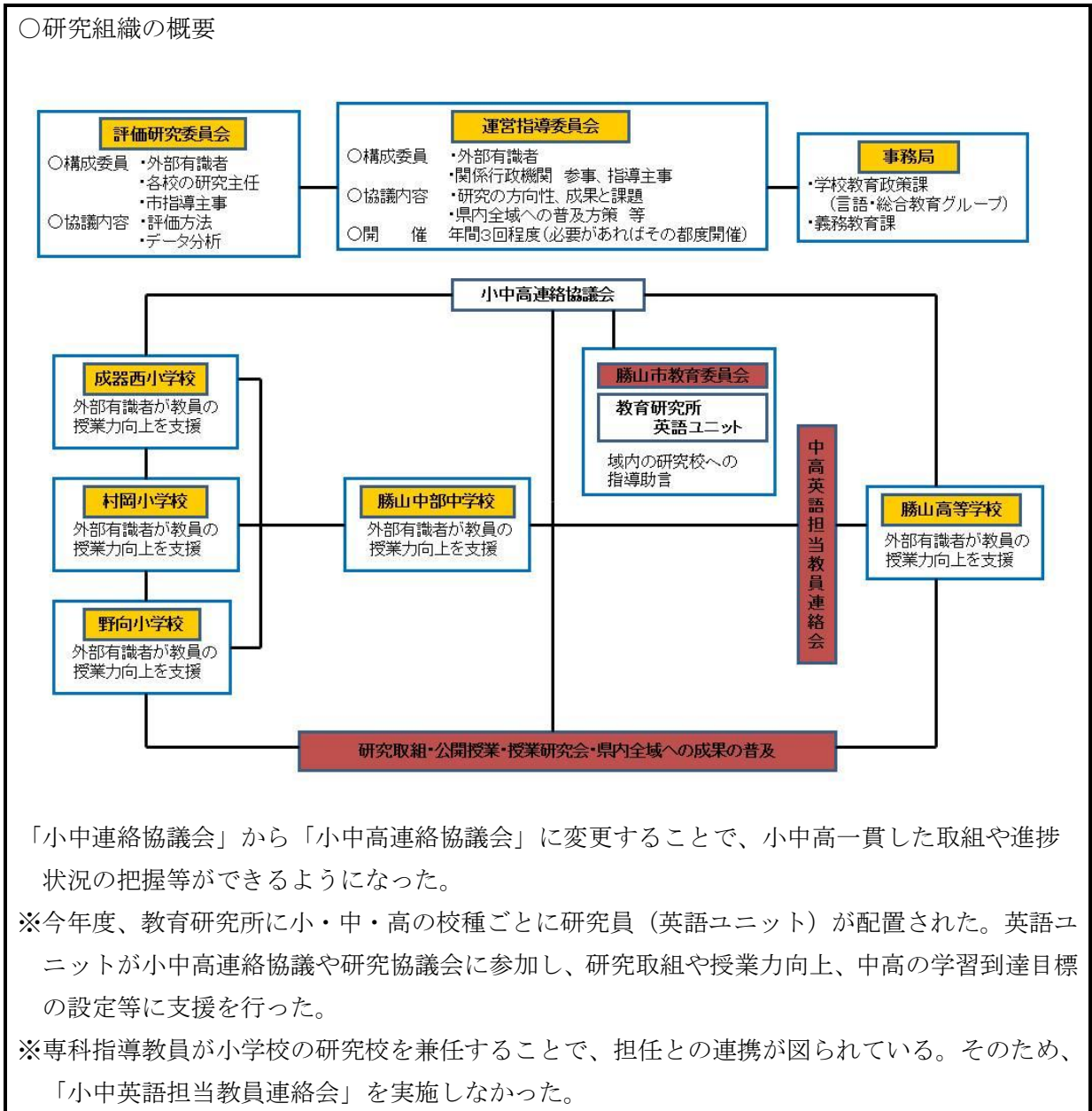
- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に4年間の情意面の変容（経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・2月に4年間の学力面の変容（経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・英語検定の受験を促し、50%以上の生徒が3級を取得することを目標とする。

【高校】

- ・学習到達目標の達成状況を把握するために、評価方法（校内テストやパフォーマンステスト等）を改善する。
- ・2月に4年間の情意面の変容（経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・2月に4年間の学力面の変容（経年比較、強化地域拠点校以外の学校との比較、学年集団の3年間の追跡調査）を分析する。
- ・英語検定の受験を促し、50%以上の生徒が準2級～2級を取得することを目標とする。

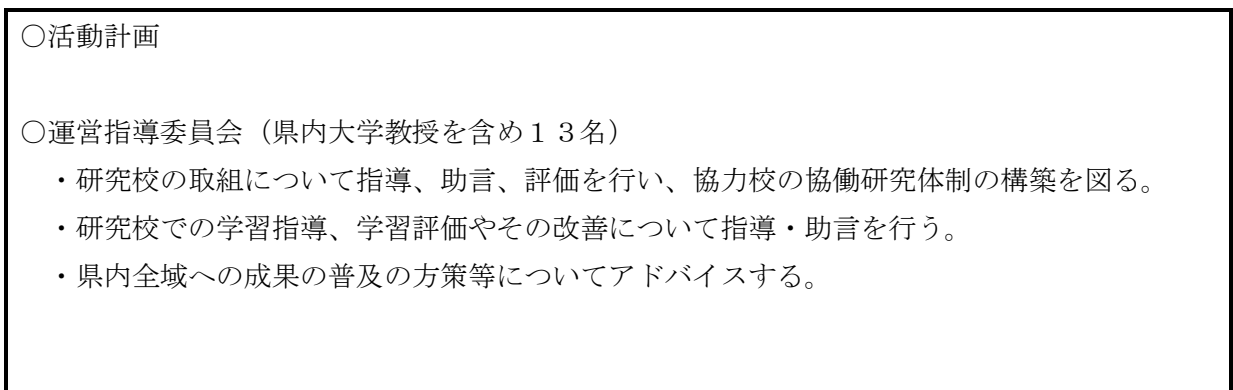
4. 研究組織

(1) 研究組織の概要 (平成26年度の進捗状況・課題)



(2) 運営指導委員会

活動計画 (平成26年度の進捗状況・課題)



○評価委員会（県内大学教授を含め7名）

- ・ 情意面や学力面を評価する内容や方法に妥当性があるかを分析する。
- ・ 情意面や学力面を評価するためのデータの精選、結果の分析を行う。
- ・ 小中高一貫した学習到達目標の検証を行う。

○指導主事等

- ・ 研究校への指導や助言を行う。
- ・ 運営指導委員会を開催する。
- ・ 研究校の研究主任と連携して、福井県教育研究所等で開催される研修会や教育情報フォーラムを活用して、研究校での開催事業や成果を発信する。

○小中連絡協議会

- ・ 出席者 小中の研究主任（1名）、巡回英語教員、勝山市指導主事
- ・ 時 期 原則として毎月開催
- ・ 協議内容 ・ 協力校の取組（教科化に向けた成果と課題、公開授業や授業研究会等の取組等の進捗状況）
・ 校内研修体制の構築

○小中英語担当教員連絡会

- ・ 出席者 小学外国語活動・英語科担当教員、中学の英語科担当教員、及び小3～小6担任
- ・ 回 数 原則的に年間4回開催（必要があればその都度開催）
- ・ 協議内容 ・ 外国語活動や小学英語科の成果と課題
・ アンケートや評価から見える児童生徒の意識や学力分析

○中高英語担当教員連絡会

- ・ 出席者 中高英語担当教員
- ・ 回 数 原則的に年間4回開催（必要があればその都度開催）
- ・ 協議内容 ・ 外部検定試験の結果分析・今後の学習指導の方針
・ 学習到達目標にそった指導と評価の一体化
・ 中高における学習内容の高度化に対応するための指導内容とその方法、評価

○公開授業、授業研究会

- ・ 研究校は年間2回実施
- ・ 2月に研究発表会を行い、成果を県内外に発信する。
- ・ 運営指導委員である県内大学教授が、研究校の公開授業や授業研究会等に助言者として参加し、指導、助言を行う。

○平成26年度の進捗状況・課題

○運営指導委員会

- ・既に3回の会議を開催（6月、7月、12月）し、3月に開催予定である。
- ・県内有識者から、校内の研究体制や授業力向上に対する指導、小学6年の英語科の「読むこと」「書くこと」に対する指導方法について助言を受けた。
- ・ベネッセコーポレーション（GTEC 事業推進課）から有識者を追加招聘し、小学校英語科の先進的取組、中高の CAN-DO リスト活用事例、外部検定試験を活用した指導と評価の一体化等について情報提案を受けた。

○評価委員会

- ・既に1回の会議を開催（8月）し、2月に開催予定である。
- ・8月の会議では、小学校外国語活動と英語科の目標と内容、評価の観点と評価規準等について、外部有識者の指導・助言を受けた。
- ・2月の会議では、外部検定試験と情意面に関するアンケートの結果分析を受けて、指導と評価への活かし方について協議する予定である。

○指導主事等

- ・勝山市教育委員会と連携して、研究体制構築の支援、授業力向上のための指導・助言、教育研究所との協働研究体制構築、先進校視察のための情報提供を行った。
- ・公開授業・研究協議会の案内については、小・中の研究校は県内の全小・中学校と勝山高校に、高校の研究校は県内の全高校と勝山市内の全小・中学校に配付した。
- ・外部有識者と連絡・調整を図るとともに、運営指導委員会を開催した。
- ・県教委担当者が中心となって、教育情報フォーラムにおいて成果を発信（15回以上）した。来年度は、小中高連絡協議会内の普及研究部も成果の発信を行う。

○小中高連絡協議会

- ・年度当初は「小中連絡協議会」を想定していたが、小中高一貫した取組や進捗状況の把握等を行うため、「小中高連絡協議会」を行った。
- ・小中高連絡協議会の立ち上げによって、研究体制や校内研修体制が年度当初にスムーズに構築された。また、公開授業等の研究校の取組を把握するなど、研究推進をする上で重要な役割を担っている。
- ・この協議会に研究校の管理職が参加することで、本事業が全校体制の取組になっている。

○「小中英語担当教員連絡会」

- ・専科指導教員が小学校の研究校を兼任することで、担任との連携が図られている。そのため、「小中英語担当教員連絡会」を実施しなかった。

○中高英語担当教員連絡会

- ・教育研究所の支援を受けながら、中高一貫した学習到達目標の設定のため協議を2回実施し、学習到達目標を設定した。指導と評価にどのように活用するかが今後の課題である。
- ・中高生が受験したGTECの結果分析を行い、今後の学習指導の方針を協議した。

○公開授業、授業研究会

- ・すべての研究校で、「事前検討会」と「公開授業・研究協議会」を年間2回ずつ実施した。授業力向上のため、県内の外部有識者を各校に一人ずつ配置し、該当校のすべての研究会に助言者として参加した。外部有識者の指導・助言によって、教員の授業力の向上が見られた。
- ・公開授業等の成果の発信は、県教委が教育情報フォーラムで行っている。また、成器西小学校は学校のホームページで取組の様子を発信している。

5. 年間事業経過

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	○第1回小中連絡協議会（4/17） ①英語教育強化地域拠点事業の概要について （県教委が説明） ②質疑・応答 ○教育研究所・県教委との協働による授業改善 ・4/25 村岡小学校 2校時：4年 外国語活動 4校時：3年 外国語活動 5校時：6年 英語科 ・4/28 成器西小学校 2校時：5年 外国語活動 4校時：6年 英語科	
5月	○教育研究所・県教委との協働による授業改善 ・5/1 野向小学校 1校時：4年 外国語活動 3校時：5・6年 英語科 ○第2回小中高連絡協議会（5/2） 小中高一貫した取組や進捗状況の把握等を行うため、「小中連絡協議会」から「小中高連絡協議会」に変更した。 ①英語教育強化地域拠点事業について ②今年度の組織、取組、目標について ○公開授業・授業研究会① ・5/22 成器西小学校（事前検討会） 5校時：4年 外国語活動	

	<ul style="list-style-type: none"> ・5/23 野向小学校 (事前検討会) 5校時：5・6年 英語科 ・5/28 野向小学校 (公開授業、授業研究会) 5校時：5・6年 英語科 ・5/29 成器西小学校 (公開授業、授業研究会) 5校時：4年 外国語活動 	
6月	<p>○第3回小中高連絡協議会 (6/6) (第1回合同会議、第1回英語担当教員連絡会)</p> <p>①全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育強化地域拠点事業について ・各部会より <p>②部会別協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究部 (4年間の研究の見通し) ・評価研究部 (学期末の評価方法) ・普及研究部 <p>③全体会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会より <p>○公開授業・授業研究会②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/9 勝山高校 (事前検討会) 5校時 1年 コミュニケーション英語 I ・6/17 勝山高校 (公開授業、授業研究会) 5校時 1年 コミュニケーション英語 I ・6/17 村岡小学校 (事前検討会) 5校時：3年 外国語活動 ・6/30 村岡小学校 (公開授業、授業研究会) 5校時：4年 外国語活動 <p>○教育研究所・県教委との協働による授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/25 勝山中部中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・英語教員と授業改善に向けた協議 ・今後の取組について共通理解) <p>○第4回小中高連絡協議会 (6/26)</p> <p>①勝山市教委より</p> <p>②各部会より</p> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の記録、予算の使い方、勝山市夏季研修会について 	<p>○第1回運営指導委員会 (6/12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の概要説明 ・授業研究について (事前研究会と授業研究・研究協議会の2回ずつ行う)

7月	<p>○教育研究所・県教委との協働による授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/11 勝山中部中学校 <ul style="list-style-type: none"> 3校時：1年・3年 英語科 4校時：意見交換 	<p>○第2回運営指導委員会(7/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小学校の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題 ・小学校教員の授業力 ・英語科での読む・書く活動 ・3～6年の評価 ②中学校の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題 ・英語教員の授業力向上 ・意見や考えを発信できる授業のあり方 ・指導と評価の一体化 ③高校の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題 ・CAN-DO リストを活用した授業改善 ④その他 <ul style="list-style-type: none"> ・成果の発信について
8月	<p>○第5回小中高連絡協議会(8/1：午前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①市教委、教育研究所、事務局より ②各部会より取組報告 <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究部(年間指導計画の作成) ・評価研究部(評価規準、通知票) ・普及研究部(アンケート) ③その他 <ul style="list-style-type: none"> ・先進校視察 <p>○勝山市夏季研修会(8/1：午後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的：勝山市内の教員が一同に集い、小学校での英語(外国語)教育について共通の課題意識を持ち、中学校との連携のあり方について考えを深める。 ・内容：①今後の英語教育改革について(県教委担当者) ②中学校英語の授業の実際(県教委担当者) ③学校外国語活動の実際(県教委指導主事) 	<p>○第1回評価委員会(8/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①1学期の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・英語科の目標と内容 ・評価の観点と評価規準 ・通知票の記入 ・評価・評定 ②□外部有識者の指導・助言 ③次回評価委員会の内容

9月	<p>○公開授業・授業研究会③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/29 野向小学校（事前検討会） 5校時：4年 外国語活動 	
10月	<p>○第1回中高英語担当教員連絡会(10/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①組織について ②中高のCAN-DOリスト検討 <p>○第6回小中高連絡協議会（10/7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①今後の取組 ②組織の拡大（勝山市内の全小学校の代表教員も参加） ③部会より 報告・成果物の作業について <p>○公開授業・授業研究会④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/2 成器西小学校（事前検討会） 6校時：6年 英語科 ・10/10 村岡小学校（事前検討会） 6校時：6年 英語科 ・10/27 勝山中部中学校（事前検討会） 6校時：1年 英語科 ・10/28 村岡小学校（公開授業、授業研究会） 5校時：6年 英語科 <p>○GTEC受験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/3 勝山中部中学校 3年生（74名） ・10/30 勝山高校 3年生（147名） <p>○先進校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/15 京都教育大学附属高校を訪問 勝山高校の教員（2名）が参加 ・10/15 京都教育大学附属桃山小学校を訪問 成器西小・村岡小・野向小の教員（6名）が参加 <p>○第2回中高英語担当教員連絡会(10/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①先進校視察報告 ②中高のCAN-DOリスト検討 	
11月	<p>○公開授業・授業研究会⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/5 成器西小学校（研究発表会：公開授業、授業研究会） 5校時：3年 外国語活動 6年 英語科 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/11 野向小学校（公開授業、授業研究会） 5校時：4年 外国語活動 ・ 11/12 勝山中部中学校（公開授業、授業研究会） 5校時：1年 英語科 <p>○第7回小中高連絡協議会（11/14）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①関係者名簿 ②先進校視察の報告 ③公開授業の報告 ④各部会より 授業研究部、評価研究部、普及研究部 ⑤今後の公開授業の予定 	
12月	<p>○GTEC受験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/16 勝山高校 1年生（133名） ・ 12/17 勝山高校 2年生（137名） 	<p>○第3回運営指導委員会(12/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小学校の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果と課題 ・ 小学校教員の授業力 ・ 英語科での読む・書く活動 ・ 3～6年の評価 ②中学校の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果と課題 ・ 英語教員の授業力向上 ・ 指導と評価の一体化 ③高校の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果と課題 ・ CAN-DO リストを活用した授業改善 ④その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果の発信について（県内教員への普及）
1月	<p>○公開授業・授業研究会⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1/26 勝山中部中学校（事前検討会）2年 英語科 <p>○第8回小中高連絡協議会(1/15)</p> <p>○1/29 全国連絡協議会に参加（7人参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者：5校の研究校から代表者1人ずつ 市教委指導主事、県教委担当者 	

2月	<p>○公開授業・研究発表会⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/5 勝山中部中学校（研究発表会：公開授業、授業研究会） 6校時：2年 英語科 ・2/2 勝山高校（事前検討会） 5校時：1年 コミュニケーション英語 I ・2/9 勝山高校（公開授業、授業研究会） 5校時：1年 コミュニケーション英語 I <p>○研究校（中2）において外部検定試験（GTEC）受験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/12 勝山中部中学校 2年生（84名） <p>○第9回小中高連絡協議会</p> <p>○先進校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/20 京都教育大学附属桃山中学校を訪問 勝山中部中学校の教員（2名）が参加 	<p>○第2回評価委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①アンケートから見える児童・生徒の情意面の分析 ②GTECから見える生徒の英語力の分析、今後の指導方法 ③指導と評価の一体化
3月	<p>○第10回小中高連絡協議会</p> <p>○第3回中高英語担当教員連絡会</p>	第4回運営指導委員会
<p>【その他の取組】</p> <p>○小・中の研究校における公開授業の案内は、県内の全小・中学校と勝山高校に配付した。</p> <p>○高校の研究校における公開授業の案内は県内の全高校と勝山市内の全小・中学校に配付した。</p> <p>○公開授業の指導案や実践例、小中高の研究の成果を「教育情報フォーラム（福井県教育研究所）」に掲載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/29 グローバル化に対応した英語教育改革実施計画について ・6/19 「英語教育強化地域拠点事業」の研究概要について ・7/ 8 授業実践記録1（野向小学校） ・8/14 授業実践記録2（成器西小学校） ・9/ 1 授業実践記録3（村岡小学校） ・10/20 公開授業の予定について ・10/30 「今後の英語教育の改善・充実方策について」 ～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言～ ・11/26 授業実践記録4（村岡小学校） ・11/27 研究校が活用している外国語活動の参考書籍の紹介 ・11/28 実践記録5（村岡小学校の学校全体の取組、他教科と関連した授業作り） ・12/19 授業実践記録6（成器西小学校） ・12/22 授業実践記録7（成器西小学校） ・12/24 実践記録8（成器小学校の学校全体の取組） ・12/25 授業実践記録9（野向小学校） ・12/26 実践記録10（野向小学校の学校全体の取組） 		

- ・ 1/ 5 授業実践記録 1 1 (絵本の読み聞かせ)
- ・ 1/ 7 授業実践記録 1 2 (勝山中部中学校)
- ・ 1/ 8 実践記録 1 3 (勝山中部中学校の学校全体の取組)
- ・ 1/ 9 実践記録 1 4 (中高一貫した CAN-DO リストの設定)

○成器西小学校ホームページにおける成果の発信

- ・ 4/28 英語の授業見学
- ・ 5/22 外部有識者の授業参観
- ・ 5/29 「英語教育強化地域拠点事業」公開授業
- ・ 6/ 6 英語教育強化地域拠点事業 中高合同会議
- ・ 6/23 外国語活動の研究授業 5年1組
- ・ 6/25 高浜町の学校視察
- ・ 9/ 3 教育研究所の先生による授業
- ・ 9/ 8 教育研究所の先生による授業 (2回目)
- ・ 9/17 教育研究所の先生による授業 (3回目)
- ・ 9/19 小学校英語科研究授業 教育研究所の先生と担任の授業 (4回目) ~
- ・ 9/22 菅正隆教授の御指導
- ・ 10/2 英語の事前研究会
- ・ 10/3 英語教育教科地域拠点事業の日程と会場
- ・ 11/5 英語教育強化地域拠点事業公開授業
- ・ 12/9 菅先生の御指導 (英語)

・研究成果を報告書やCD、DVDにまとめ、県内の全小中高校に配付し、成果の普及を図る。

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	福井県教育庁 義務教育課 担当 (西)
連絡先 (電話番号)	代表 : 0 7 7 6 - 2 1 - 1 1 1 1 (内線) 4 1 8 8 直通 : 0 7 7 6 - 2 0 - 0 5 7 5
(電子メール)	E-mail : gimu@pref.fukui.lg.jp